

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 046	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 果樹ジョイント栽培の樹種別、品種別横断的マニュアルの作成について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 【背景】ジョイント栽培は、果樹の早期成園化、省力化技術として導入が図られている。ナシでは、完成度の高い栽培マニュアルも作成されている。現地では、ナシ等樹勢の強い樹種では、接木の成功率も高く、早期成園化を達成しているが、カキ等樹勢の弱い樹種では、実用に即した接木の成功率を確保することが困難な場面も生じており、早期成園化技術の確立が求められている。 【内容】更なるジョイント栽培の現地での導入、定着を図るため、各樹種別にジョイント栽培に適する品種や条件、栽培上の留意点が整理された横断的マニュアルの作成が求められる。 【背景】横浜市、川崎市 ジョイント栽培導入戸数21戸、栽培面積130.5a、計画面積181a（2017年1月現在）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 果樹の超省力・多収安定生産を実現するための技術の開発 2 ジョイント栽培を活用した果樹の安定生産技術の開発 (3) ジョイント栽培によるカキ、リンゴ等の安定生産技術の開発 ア カキ「太秋」ジョイント栽培の小規模園地向き技術への改良 (H28～H29)			
対応の内容等 横浜川崎地域でジョイント栽培が導入されている樹種（ナシ、カキ、ウメ、スモモ）別の栽培指針については、当所が参画した研究コンソーシアムで平成21年度からの5年間で取り組んだ成果について当所のホームページで公開しています。そのうちジョイント栽培が難しいとされるカキについては、福岡県が継続的に取り組んでおり、成果を福岡県農業総合試験場ホームページから見る事ができます。また、当所でも「太秋」のジョイント栽培について、小規模園地（3a～10a）向きに、樹齢に応じた着果数、葉果比、側枝更新年限などを検討しています。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 ・ジョイント栽培マニュアル（農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システムの開発」成果集(H26.3)） (http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450008/p870833.html) ・福岡県農業総合試験場成果 (http://farc.pref.fukuoka.jp/farc/seika/seika07/sei-mo07.htm)			